

曹青かわら版

平成二十五年前期号

平成 25 年 9 月 27 日

山口県曹洞宗青年会

会長 清木隆法



夏の思い出“縁日”にてクジ付き綿菓子の当たりを確認する岩本胡桃ちゃん

豪雨災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

30日には萩市災害ボランティアセンター(旧奈古高校須佐分校)、1日には山口市災害ボランティアセンター(長門峡自然休養村管理センター)が設立されました。

県青年会では中国地方の曹青会様に支援活動で使用するタオルの提供をお願いし、寄せられた約10,000枚を山口市災害ボランティアセンターにお届けしました。

7月31日から8月29日まで、お盆の時期を除いて被災寺院・各災害ボランティアセンター入りし、復旧支援活動をさせていただきました。

豪雨災害復旧 支援活動報告

7月28日(日)、萩市須佐では3時間

に300ミリ、山口市徳佐では同

250ミリを超える、いずれも同地点における観測史上最大の降水量を記録し、その被害は甚大なものとなりました。

豪雨災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

30日には萩市災害ボランティアセンター(旧奈古高校須佐分校)、1日には山口市災害ボランティアセンター(長門峡自然休養村管理センター)が設立されました。

県青年会では中国地方の曹青会様に支援活動で使用するタオルの提供をお願いし、寄せられた約10,000枚を山口市災害ボランティアセンターにお届けしました。

7月31日から8月29日まで、お盆の時期を除いて被災寺院・各災害ボランティアセンター入りし、復旧支援活動をさせていただきました。



① 位牌堂に残された泥を丹念に拭く

◆ 7月31日(水)

山口市徳佐の大源寺様にて活動。

山からの土砂が本堂裏の位牌堂一面と本堂の大半を覆った状態。境内には多数の土砂・流木があり、人力の及ぶ範囲ではなく、すでに重機で作業中でした。

位牌堂に膝丈まで積もった土砂は前日に石見曹青様の手によって大半は除去済み。高圧洗浄機を用い、残りを除去しました。(写真①)

◆ 8月2日(金)

萩市弥富の全柳寺様にて活動。境内裏手、本堂・庫裡の床下に至るまで土砂が混入。かつての池はその境の区別がつかない状態。台所と裏庭の重機の届かない箇所を重点的に土砂の除去を行いました。(写真②)



② 家具を移動しての床の清掃

◆ 8月3日(土)

前日に引き続き全柳寺様での活動。小屋に溜まった土砂の除去と廃棄物の搬出、消火栓を用いて洗浄を行いました。

◆ 8月19日(月)

山口市源久寺様に集合。各方面より提供されたタオルを新品と清掃用とに分類しました。(写真③)

段ボール箱40箱を軽トラ3台に分乗し、山口市災害ボランティアセンターまで届けました。



③ 源久寺様にて梱包を解き分類中

◆ 8月20日(火)

全柳寺様にて活動。本堂床下の基礎は区分けされており、その全般に亘って土砂・

泥水に浸された状態。

まず外周部からチリトリで掬い上げて隣に移すことを繰り返し、最終的に中央に集めてポンプで吸い出しました。(写真④)

床下内の柱と耐震用の横たわる板に移動を阻まれ、作業は難航を極めました。

◆ 8月21日(水)

前日から引き続き全柳寺様にて活動。この日は防府市の社会福祉協議会の募ったボランティア20名が来てくれて、一緒に作業を行いました。(写真⑤)

庫裡に近い法堂東側の方が土砂の量が多く、庫裡側からも床板を上げて、バケツで汲み上げました。

その後、柱・横板に付着した泥を拭き取って作業の一段落としました。

この日TYSが取材に来ており、夕方のニュースにて紹介されました。



④ 床下の土砂を中央に集めている様子



⑤ 防府から来たボランティア。内2人の高校生は岡山から

◆ 8月22日(木)

萩市災害ボランティアセンターの活動に参加しました。7時30分に萩市役所第3駐車場に集合。送迎バスに乗り、50分程度掛けてボランティアセンターへ。8時30分から受付開始。個人参加の7名と共に計9名で押谷地区の個人宅へ。

山からの土砂が蔵の周辺と内部に堆積しており、これを掻き出しました。蔵の内部は人の背丈程に土砂が溜まつており、これを3分の1まで減らしたところで続きは後日に継続としました。(写真⑥)

山口市災害ボランティアセンターの活動にも参加しました。個人のお宅の庭や蔵の清掃を行いました。蔵の1階の3分の1ほどの高さまで浸水したことが分かりました。

蔵の中は物と土砂で溢れていたものでそれらを撤去する作業と、庭の重機が入ることが出来ない場所の土砂の除去を行いました。



⑥ 蔵の内部ほぼ全てに堆積した土砂をここまで減らしました

◆ 8月23日(金)

この日も萩市災害ボランティアセンターへ。個人参加の5名と共に計8名にて弥富地区の個人宅へ。

家の目の前の川から納屋に流入した土砂を除去し、土間に敷かれていた腐った床板を焼却しました。

◆ 8月27日(火)

山口市災害ボランティアセンターの活動に参加。個人参加の3名と共に計8名にて徳佐地区の大源寺様へ。

本堂周囲の土砂は概ね取り除かれていたものの、本堂庫裡の床下は手付かずでした。トタン板・すのこをレール代わりに用いて石みにて搬出。庫裡の床下の過半数の土砂を除去しました。(写真⑦)



⑦ 奥に進むにつれ、搬出作業が難航

◆ 8月28日(水)

この日は萩市災害ボランティアセンター主催の「夏の思い出」縁日」に出店しました。

被害の酷かった須佐・田万川地区の子供たちに対して、

「がんばっている子どもたち

ちの笑顔を増やしたい。そして、子どもたちの笑顔で地域を元気づけたい。」との理念のもとに旧奈古高校須佐分校にて縁日が行われました。(写真⑧)

十数の関係諸団体約40名の手により、屋外ではフランクフルト・石巻やきそば・フルーツポンチ・かき氷・フライドポテト・カレー・綿菓子・ポップコーン・ジュースが振る舞われ、屋内では手品・ヨー釣り・塗り絵・缶バッジ作り・バルーンアート・似顔絵・ビンゴゲーム等が催されました。(写真⑨)



⑧ 炎天下にも関わらず、たくさんの子供たち・保護者の方が来てくれました



⑩ 上手に巻くのは意外と難しい！

(写真⑩)

10時30分から須佐・田万川地区の子供たちが来場。特に綿菓子には好評を博し、中には2度3度訪れる子供もいました。

9時30分には全体ミーティング。関係諸団体の代表者がそれぞれ挨拶を、県青年会からは前会長清成良知師が挨拶しました。

三池さんには綿菓子機と発電機をお借りしました。さらに当たり付きくじとその景品の提供もしていただきました。

⑨ 主催者によるビンゴゲームの様子

県青年会ではSVAからの要請を受けて、綿菓子・ポップコーン・ジュースの提供を行いました。

当日は9時に現地に集合。

周南市のレンタル屋さん、レンタルボックスの藤井さんから綿菓子機・ポップコーン機・発電機をお借りしました。SVA理事・有馬老師の伝手でSVA笠井さん、下松市関伽井坊の三池さんとそのご友人の奈良山さん・浅海さんにもお手伝いいただきました。

三池さんには綿菓子機と発電機をお借りしました。さらに当たり付きくじとその景品の提供もしていただきました。

昼過ぎには部活を終えた中学生も来場。12時15分と14時15分の2回、主催者開催のビンゴゲームが行われました。最後に今回の災害の概要をまとめたスライドショーが上映されました。

14時30分を以て縁日終了。

300人を超える来場者がありました。

◆ 8月29日(木)

萩市災害ボランティアセンターの活動に参加。鳥取県社会福祉協議会のボランティア「とつとりささえ愛ボランティア」のメンバー16名と共に計21名にて中小川地区の蔵元へ。蔵元の隣の田万川の水位が堤防を越え、堤防こそ壊れなかったものの、その内側の土砂が家屋・畑に流入するといった状況。(写真⑪)

家の周囲の側溝と田万川隣の用水路に溜まった土砂の除去を行いました。「とつとりささえ愛ボランティア」は8月上旬にも来ており、今回は第2陣目。

◆ 8月30日(金)

30日と31日の活動は悪天候の為、中止となりました。8月31日を以て「萩市災害ボランティアセンター」は閉所され、以後の活動は「萩市生活応援センター」に引き継がれます。

県青年会の災害復旧支援活動はボランティアセンターの閉所に伴い、終了とさせていただきます。皆様には多大なご支援・ご協力を頂き誠にありがとうございました。

参加OB・正会員延べ61名



⑪ 堤防は無事だが、その内側が抉られた

活動部第33班報告

「震災ボランティアに参加して」

宇部市光善寺 松原元映

9月9日(月)～12日(木)、岩手県釜石市へ初めてボランティアに参加させて頂きました。実質2日間の活動で、2班で計8ヶ所の仮設住宅を訪問し、フラダンスの披露(写真①)、たこ焼きやお抹茶等を振舞い(写真②)、「たこ焼きを震災後初めて食べた」と、喜んで頂きました。



① フラダンスを皆さんと



② “たこ焼き”好評でした

仮設の方のお話しの中で「震災後は、早く復興をという気持ちがあった。でも今は、復興住宅の建設も見通しが立たず自分たちも年をとる。諦めというか、ここにいかにも暮らすかを考えるようになった」『オリンピックが東京に決まったが、そうなれば資材や人がそちに取られ、ますます遅れて忘れられるだろう』と一番忘れてはいけない方達から言われました。また「以

前よりボランティアも減り、心のケアをしてくれる機会も少なくなった。こうして来てくれて話をして、聞いてくれることがありがたい。」とも話され、お坊さんだからと『法話』を求められていました(写真③)。



③ リクエストにお応えして

今回参加させて頂いて率直に思うことは、震災から二年半が経ち、新築・再開した店舗はあるものの、被災したままのビルや草の生えた空き地(写真④)。そんな光景を見ながら、どん



④ 震災2年半後風景

な思いで生活しておられるのだろう、とつと知りたいと思いました。また人々の「不安」が消えることはなく、今だから話せる事もあるのではないか。やはり心の拠り所となる場所や人は、まだまだ必要だと感じました。

気持ちたちが薄れることなく続けていく事、自分にどんなお手伝いができるのかを改めて考えさせて頂きました。

ありがとうございました。

広島原爆慰霊法要 中曹青連絡協議会

6月4日(火)、広島市平和記念公園にて県青年会担当で慰霊法要を厳修しました。

その後、広島国際会議場に場所を移し、山口市長徳寺ご住職河谷正也老師に「布教の現場」と題し、ご講義を頂きました。その中で老師は法事の席にて、お経の功德について、

「お経をご自分の修行としてお読み下さい。修行によって高



清成良知師が導師を務めました



講義の前に脳トレ！

めた功德を焼香に乗せて差し上げます。差し上げる時は一旦功德を自分のものとして取り込みます。それを回し向けるのが法事です。」

「今日をしつかり働き・遊び、亡き人に安心してもらうことが先祖供養になります。」と説明されるそうです。

場所をアークホテル広島に移し、懇親会を催しました。その席で、中国管区理事である前会長清成良知師から石見曹青城市泰紀師へ管区理事交代の挨拶が交わされました。

弁道会

～人権学習～

6月14日(金)、山口市禅昌寺様を会場に、弁道会を行いました。講師に萩市全柳寺ご住職山本昌男老師をお迎えし、人権について学びました。



会員一同熱心に聞き入りました

緑蔭禅のつどい

7月6日(土)、防府市大楽寺様を会場に、平成二十五度「緑蔭禅のつどい」を開催しまし



坐禅指導は副会長・磯部誠司師が行いました

◆法話

前会長清成良知師が「ものの見方」と題して法話をされました。

た。大雨にも関わらず、29名の参加者がありました。
9時開会式、坐禅、法話、昼食を経て、防府市図書館長かつ山口県方言研究家の森川信夫先生による講演、写経、坐禅、16時に閉会式を以て解散という流れでした。



行持の裏で肅々と進められる中食の準備

「人の心が読めるんですよ。」と。一人に紙とペンを渡し、0と99の中から好きな数字をひとつ選んで書いてもらい、その数字を師に向かって念じてもらう。師はその念から感じる数字を紙に書き、その紙を伏せ、ペンを置く。そして一人の選んだ数字を発表してもらう。師も書いた数字を発表すると一致しているというマジックをされました。

その見事な様子に会場全体から喝采が送られました。

「マジックは、本当は2本平行

に並んだ線を1本にしか見えない視点から見せているに過ぎないんですよ。」と。

◆講演

「面白くて為になる山口弁よもやま話」と題して森川信夫先生に講演していただきました。

山口弁の特徴から始まり、

「方言は昔、都で使われていたものが人の往来で伝わり、地方に行き渡った時には既に都では使われなくなっていた昔の雅な言葉である。」と方言の由来を説明されました。

「上一段・下一段活用動詞の「ら抜き言葉」が問題視されて久しいが、五段活用動詞は江戸時代中期には既に「ら抜き言葉」になっていた。言葉は時代と共に変化するものであり、誤用でもそれを使う人が多くなればやがて主流になる。平安時代の作家、清少納言は若者の言葉の乱れを嘆いていた。しかし、それは全世界で見られる傾向。1000年後には今我々の

使っている言葉を理解するのに辞書が必要になる。」と締め括られました。

森川先生は、NHK総合・山口の「維新情報!やまぐち」(18時10分〜19時)の第1火曜日の「カフェのんた(11時45分〜54分)」の第1水曜日に山口弁講座の講師として出演されています。

頂いたアンケートの中から一部紹介します。



森川先生には終始質問が絶えませんでした

毎年のこと大変感動し感謝しています(昨年欠席)。

精進料理は毎年違って美味しく食しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。一年間の心休まる行事です。ありがとうございます。とても充実した一日でした。特に法話は心をゆさぶられ感動しました。

○70代女性

参加して若いお坊さんが多いことを知り、仏教離れの昨今、お坊さんたちがお寺から外に出て少しでも多くの方に仏教の教え、生き方の話をされることも大切なことではないでしょうか。ありがとうございました。

○70代男性

山口弁のお話は興味深かったのですがお昼を食べた後で少しうとうとしたのが申し訳なかつたです。写経の時間はもう少し長い方が良い気がします。精進料理はおいしく頂きました。

○50代男性

禅 in サマーセミナー・徒弟研修 日程

- 25 日(木) 開会式 オリエンテーション
 坐禅
 夕食 紙芝居(巖流島の決闘)
 凧作り①
 車で火の山へ
- 26 日(金) 坐禅 ラジオ体操
 朝食 松原老師のお話
 海響館②
 巖流島③ 昼食 凧揚げ大会
 門司港レトロ展望台④
 トロッコ列車(門司港レトロ観光線)⑤
 出光美術館駅—関門海峡めかり駅
 市立和布刈塩水プール
 関門トンネル人道
 夕食
 キャンドルサービス スタンプ マジック
- 27 日(土) 坐禅 ラジオ体操
 朝食
 紙芝居(壇ノ浦の合戦)⑥
 ロープウェイで火の山へ
 閉会式⑦

禅 in サマーセミナー 徒弟研修 併催

7 月 25 日(木)～27 日(土)の間、下関市火の山ユースホステルにて、禅 in サマーセミナーと徒弟研修が中国管区教化センターと県宗務所の共催で行われ、県青年会も指導員として協力させていただきました。
 中国地方各県より計 49 名の
 子供たちの参加がありました。



天井に張り巡らされたクレーンで魚を運びます

① 凧作り

1 日目夕食後、巖流島にて飛ばす凧を作りました。子供たちは絵を描くことばかり熱心に。埒らない凧作りに、指導員の先生たちは懸命に指導していました。

② 海響館

2 日目朝食後、海響館へ。普段一般客が入れない箇所を巡るバックヤードツアーを 2 グループに分かれて行いました。

施設の説明を受けながら、飼育中の魚を観察しました。巨大水槽を上から覗くといった貴重な体験もしました。一般客の通る通路は空調が効いていて快適であったのに対し、従業員専用通路は蒸し暑かったです。

③ 巖流島

海響館を後にし、隣の唐戸棧橋から巖流島へ向かいました。多目的広場で昼食を摂り、暫く各々凧揚げを堪能。そして



凧揚げ大会にて見事優勝した齋藤寿江ちゃん

大会へ。まず班で一番高く揚げた人を決め、次いで決勝戦へ。結果、優勝したのは周南市から参加した齋藤寿江ちゃん。準優勝は長徳寺徒弟・河谷凌雲くんでした。おめでとうございます。



門司港レトロ展望台



キタノ大地先生による披露



夕食はバーベキュー

⑤ トロッコ列車
トロッコ列車に乗って市立和布刈塩水プールに行きました。ひとしきり楽しんだ後、関門トンネル人道を通って、ユースホステルまで帰りました。

④ 門司港レトロ展望室
巖流島から連絡船で門司港へ。門司港レトロ展望台は31階103mの高さにあり、門司港の全景を見渡せます。ひとしきり眺めた後、班ごとに記念撮影をしました。



臨場感を出す効果音は様々な小道具を用いて

⑥ 紙芝居
3日目、壇ノ浦古戦場へ。「壇ノ浦の戦い」の紙芝居を鑑賞。関門橋を背に記念撮影した後、ロープウェイにて火の山に登りました。

⑦ 閉会式

帰って閉会式。田中統監老師から全員に修了証が手渡されました。

その後、お別れ会を兼ねた昼食へ。今回、一番印象的だった出来事を絵に描いて発表してもらいました。



凧揚げに興じる大野華音ちゃん(左)と河谷凌雲君(右)

参加した2人の徒弟さん(山口市長徳寺徒弟・河谷凌雲君、以下「凌」、周南市真福寺徒弟・大野華音ちゃん、以下「華」)にインタビュー形式で質問に答えてもらいました。

— 坐禅してどうでしたか？
凌「ちよつと苦手。今回は足にけがをしていたから特に。」
華「さいしよつらい。おわったら心が楽になった。」

— 海響館では何が印象的？
凌「ウーパールーパーがかわいかった。」
華「毎日えさを上げるのかと思った。」

※水族館では種類にも依るが餌は3日に1度の頻度。

— 凧揚げのコツがあれば？
凌「ひもを張ってはしる。」
華「最初あがらなかった。風をまつたけどこなかった。」

— スタンツ苦勞した？
凌「手足をけがしたので、ちよつと痛かったです。」
華「はじめ歌にしようかと思ったけど、1人の子がピラミッドにしようって言ったからそれにした。5回練習した。」

— 3日間で何が一番楽しかった？
凌「班で夜にやった枕投げです。」
華「凧揚げ大会。あと部屋でやったかくれんぼ。」

— ご協力頂きましてありがとうございます。

●タイ山岳民族教育支援

クラフト販売状況●

6月26日(水) 県梅花大会

クラフト 157, 600円

募金 288, 447円

7月6日(土) 緑蔭禅のつどい

クラフト 13, 600円

募金 2, 000円

7月9日(火) 特派布教(1教区)

クラフト 30, 000円

募金 4, 070円

7月9日(火) 特派布教(4教区)

クラフト 21, 400円

募金 4, 070円

7月10日(水) 特派布教(3教区)

クラフト 19, 300円

募金 4, 800円

7月11日(木) 特派布教(9教区)

クラフト 7, 000円

7月11日(木) 特派布教(12教区)

クラフト 24, 000円

募金 1, 000円

7月12日(金) 特派布教(2教区)

クラフト 25, 500円

募金 2, 500円

◆今後の行事予定

○梅花特派布教クラフト販売

9月30日(月)～10月4日(金)
1・4・5・7・9教区

○中国薬師霊場大祭

10月19日(土)
1教区 広沢寺

○寺庭婦人セミナー

10月28日(月)
1教区 龍福寺

○中曹青いずも大会

11月19日(火)～20日(水)
松江市くにびきメッセ

○戒弟のつどい

11月25日(月)
1教区 禅昌寺

○年末懇親会

12月17日(火)
山口市 ホテル寿

○弁道会「寒行托鉢」

12月22日(日)
周南市

○シャンティ学生寮訪問視察

1月20日(月)～25日(土)
タイ・パヤオ

○涅槃会坐禅会

2月25日(火)
1教区 禅昌寺

☆日めくりカレンダー鋭意製作中

ただ今、日めくりカレンダー「かけ出し和尚のなごみ暦」を製作中です。各種行持にて販売させていただく次第です。

「この日めくりカレンダーは、青年僧がこれまでの修行や日々の生活を通して学んできた、自分にとって大切な言葉をそれぞれが手書きしたものです。

個性・感性の違いはありますが、その根底には同じ仏の道を歩く青年僧という共通点があります。

その違いの中の共通点を探してもらうことで、仏様の教えや禅の心に少しでも親しんでもらえれば幸いです。合掌」

挨拶文より。

○編集後記

トップ絵について。8月23日に一緒に復旧活動をした弥富在住の岩本さんが28日の縁日にお孫さん3人と来てくれました。その時の様子を撮らせてもらいました。

【お問い合わせ】

山口県曹洞宗青年会事務局
玖珂郡和木町和木1・6・18

安禅寺内 村上邦明
電話 0827・53・4334